令和2年度　学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

教育目標	
	一つ「ほがらかに　温かく」
	二つ「まえむきに　誇らしく」
	三つ「しなやかに　逞しく」

達成度		
	A	達成
	B	おおむね達成
	C	やや不十分
	D	不十分

実践目標	取組み	評価の指標	対応	自己評価			学校関係者評価
				目標の達成状況と分析	達成度	次年度へ向けた取組	意見・要望・評価等
1　学力向上と学習指導の充実	(1)カリキュラム・マネジメントに努め、グランドデザインに掲げた生徒の資質・能力の育成を図る。	①年間授業時数を１単位35時間確保する。 ②時間割変更により自習時間を減少させる。	・授業日数を確保する。年間行事予定を確認し、短縮授業は必要最小限にとどめる。 ・時間割変更届の提出期限厳守を呼びかけ、授業の振替えを行う。	・５月の授業再開後、日課の変更、夏季休業期間の短縮、学校行事の見直しを行い授業日数の確保に努めた。 ・日課と時間割の変更を行い、授業時間数の確保に努めた。	B	○コロナ渦で、状況が不明であるが、引き続き授業日数と授業時間の確保に努める。 ○急な自習等に対応ができるように、教科主任と連携をとる。	○コロナという今まで経験したことがない混乱の中でも、生徒が前向きな気持ちで活動できるのは、先生方のサポートがあるからだと思う。 ○学校での各種行事や活動が制限されている中、ライフアート部の生徒が「大手コンビニとコラボで県産農産物を使ったパンを商品化」という報道を見て、北高生の活躍がすばらしいと感じた。 ▲コミュニケーション力について、オンライン学習やSNSのルール、情報倫理を含めたコミュニケーションの在り方を学ぶ必要がある。 ▲探究学習の中で、コミュニケーション学習を取り入れて欲しい。
	(2)教科指導力の向上を図るため、研究授業・公開授業を推進する。	①各教科で研究授業を１回以上実施し、職員全体で合評会を行う。 ②公開授業を一人１回以上実施する。 ③校外の研究授業へ２人以上参加する。	・研究授業の実施を周知するとともに、職員相互の授業見学を推進する。 ・ＰＴＡ総会等の開催にあわせて公開授業を行う。 ・他校や教育センター等の研究授業、研修会への参加を促す。	・研究授業は、ほぼ予定通り各教科で実施。全体の合評会は実施できず、各教科ごとの振り返りにとどまった。 ・コロナウイルス対策のため、保護者等の参観は見合わせた。 ・授業動画やプリントの配信など、各職員が工夫し新しい試みに取り組んだ。ClassiやG Suite等の導入にあたり職員研修会を開催した。		○今年度と同様に、ＩＣＴ機器の整備と計画的な活用を進めていく。 ○今年度はZoom等による様々なオンライン研修会が増えた。すでに、こうした研修会に参加している職員もおり、全体に案内等を周知していくことが必要である。	
	(3) 学力向上のため、協働的な学びや探究的な学習を推進するとともに、学習時間の確保を図る。	①校内研修会を実施し、探究活動の推進を図る。 ②家庭学習時間３時間以上を目指す。 ③年間を通じ、総合的な学習（探究）の時間における協働的な学びを各学年で実施する。	・新教育課程や課題探究に関する研修会を実施する。 ・学習時間調査を実施し、家庭学習の定着を図る。 ・各学年の年間計画に基づき、全職員の協力による指導を行う。	・校内の職員研修会は実施できなかった。県の伝達講習会の他に、新教育課程について理解を深める機会が必要である。 ・各学年で学習時間調査を実施した。２学年ではClassiで集計を行い、調査回数も増やした。ただし、家庭学習時間は目標に届いていない。 ・コロナ禍のため、当初の計画を変更した部分はあるが、１・２年は外部の方を招いた中間発表会を実施し、最終発表会に向けてポスター内容や発表の仕方を工夫している。また、３年は進路実現に向けた探究学習を進めている。		○新教育課程の一次案の検討とともに、教科の枠を超えた共通認識をはかる機会が必要である。 ○探究学習については今後、代表班の外部発表会への参加を予定している。また、職員対象の研修会への参加も推奨していく。 ○現在、各学年を中心にClassiやG Suite等の活用が図られている。アンケート集計の利便性等を活かし、学習時間の増加につなげる。	
	(4)読書活動を推進する。	①先見の時間の読書ｶｰﾄﾞ提出率を100％にする。 ②年間貸出冊数2000冊以上を目指す。 ③年間一人10冊以上の読書を奨励する。	・生徒への生活指導・小論文指導を徹底する。各課・学年との連携を図る。 ・図書館活動・図書委員活動の充実を図る。特設ｺｰﾅｰの更新など魅力的な図書館づくりを行う。また、探究的な学習での活用に対応できる環境を整える。 ・読書の意義について指導する。読書関連行事の更なる工夫を行う。	・夏休み明けの読書カードは、１・２年生のみであったが、提出率94.6%であった。朝読書は９月１日から開始しているが、定期テスト明けなどの再開時の取組みが徹底していない。 ・図書館での特設コーナーの更新、図書委員会での「ふぐるま」発行等、読書活動の充実に向けて日常的な取組みを実施している。現在の貸出冊数は1907冊で、探究学習への活用もあり、昨年度同時期を大幅に超えている。		○学年や教科と連携し、読書の大切さを伝えていく。特に、生徒の進路選択の幅を広げるために「現在の自分では、あまり興味がない分野」の新書などを１・２年生のうちに朝読書などで読ませたい。 ○朝読書の新たな試みとして、11月に本を読む習慣をつける取り組みを行った。次年度も実施する方向。 ○、図書委員会の日常的な取り組みを継続しながら、外部の図書館や読書関連の事業を活用する。	
2　キャリア教育の推進	(1) ３年間を見通したキャリア教育の一層の充実を図る。	①校内外での講義プログラムや体験授業等の参加率を80%以上とし、ルーブリックを用いた振り返りをする。 ②生徒の振り返りを公開し、キャリア教育に対する保護者評価において肯定度80%以上を目指す。	・3年間を通して校内外キャリア教育プログラムに参加するよう働きかける。 ・生徒の振り返りやアンケート結果などを可視化し、取り組みへの理解を求める。 ・最新の入試状況を捉えて、情報共有化を進めていく。	・キャリアパスポートの振り返りに関して各学年で実施。ただ、可視化による保護者への開示は未実施 ・進路指導研修会　総合型選抜や学校推薦型選抜指導のスキルアップを目指す。 ・夢ナビLIVE web版　1・2年 ・山形病院附属看護学校説明会 3年 ・看護医療系説明会　1・2年	B	○キャリアパスポートの運用方法の研究と、ルーブリックによる振り返りを来年度に向け積極的に働きかけていく。 ○総合型選抜や学校推薦型選抜における小論文や志望理由書の研修会等の職員研修を積極的に行う。	○昨年度を上回る3年生の進路達成状況に感謝したい。 ○進学について、地元大学との更なる連携の強化。 ▲キャリア教育について、コロナにより「大学」ではオンライン学習となり、ICTの理解とスキルの習得が求められる。同様に高校でも、オンライン受験も含め生徒だけでなく先生方の研修によるスキルアップが必要と思われる。
	(2)進路第一志望達成に向け、進路意識の高揚を図る。	①生徒向け進路講演会について70%以上のプラス評価を得る。またルーブリックを用いた振り返りをする。 ②保護者向け進路講演会の参加率を50%以上にし、またアンケート評価において70%以上のプラス評価を得る。	・各学年と連携を図りながら、外部の研究会で情報収集に努める。 ・事前アンケート等の取り組みを通してどのような話題を求めているか探る。	・各学年とも年間行事予定通りに実施し、必要に応じて計画にない講演会も加えて実施した。 ・ルーブリック評価は年度末に実施 ・各学年の各種進路講演会の参加率は概ね50%を超え、1学期などは80%を超えた参加率の場合もあった。		○新しい受験システムに対応した、職員の情報収集や保護者への情報提供を継続して行う。	

実践目標	取組み	評価の指標	対応	自　己　評　価			学校関係者評価
				目標の達成状況と分析	達成度	次年度へ向けた取組	意見・要望・評価等
３　生徒指導の推進及び特別活動の充実	(1)基本的生活習慣を身につけ、自己成長を図る。	①登下校の時間を守る。 ②交通事故発生件数を０にする。 ③登下校・校外活動において、他校生の模範となる行動（交通安全、挨拶・礼儀等）を目指す。	・フルクラムの有効利用を図るとともに、昇降口での遅刻指導や、放送による下校の呼びかけ等により、時間管理意識を高める。 ・生徒交通安全委員会の活動や集会等を利用した注意喚起等により、交通ルールやマナーについての指導を強化する。 ・機会をとらえて情報を提供し、ホームルームや学年集会で話題に取り上げて指導してもらう。	・フルクラムは学年ごと有効に活用されている。遅刻指導により例年よりは減少しているが特定の生徒が遅刻する傾向にある。 ・交通事故は15件と多い。加害事故が2件。被害事故が8件。自爆事故が5件である。重大事故になる可能性もあった事例もあった。 ・交通ルールのマナーについての苦情が数件あり、決して良好な状態とは言えない。	C	○フルクラムは引き続き有効活用を図る。 ○登校指導の際はマスクを着用して校内に入るように促す。 ○交通安全委員会からの交通マナーの呼びかけ放送を行い、事故の撲滅を図る。	○このような中において、様々な工夫をしながら行事や生徒のために活動していることに感謝している。子どもは発表の場で伸びる。特に音楽科は著しい。今後も発表の場の与えていただきたい。 ▲交通安全について、小学生の通学路である新築西通り横断歩道を北高生が自転車走行していて、小学生の目に自転車のハンドルが接触する高さのため危険である。通学路の変更をお願いしたい。 ▲自転車の乗り方は、基礎基本が大切と思う。休校の弊害もあるが、基本を身に着けて欲しい。
	(2)豊かな人間性をはぐくみ、いじめ防止に取り組む。	①いじめの根絶を図る。 ②SNSに関わるトラブルを抑制する。	・アンケート調査を年３回実施するとともに、面談強化月間を設け、各種面談の充実を図る。(6月,11月,2月) ・心に響く声がけと各種講話、関係機関との連携を通してトラブル回避を喚起する。	・計画に沿って実施している。いじめの認知としては1学期、2学期数件あったが、速やかな対応ができた。各種面談は学年対応となって進行している。		○アンケート調査のみに係わらず普段の生徒の生活状態を把握していじめの早期発見、防止に心がける。	
	(3)生徒会活動や部活動の活性化を図り、地域貢献活動等を推奨し、自己実現を図るとともに連帯感を醸成する。	①生徒会行事に係る満足度を高める。 ②インターハイ並びに全国高総文祭への複数参加を目指す。 ③ボランティアエンジェルへの登録者増加を図る。（200名以上）	・生徒の主体的、協働的な活動を支援して北高三大行事を成功させる。 ・部活動運営方針に沿った活動を継続するとともに、安全についての指導も強化する。 ・地区の民生児童委員や市社会福祉協議会等関係団体との連携を強化する。生徒への情報提供機会の充実を図る。	・合唱コンクールは中止。波乗り球技大会及び北高祭は縮小して実施した。 ・各種東北大会や全国大会が中止となったが、放送部が全国大会に出場して特別賞を受賞した。チアリーダー部も全国大会に出場する。 ・ボランティアエンジェル の活動 ①ボランティアエンジェルへの登録者１３２名 ② 1/14と2/5の２回、近隣の除雪にあたった。（延べ３２名） ③山形市内の小学生を対象とした学習支援「春休み子ども学習会」（3／25、26）に参加予定であったが、山形市のコロナ「緊急事態宣言」により中止。		○コロナウイルス感染症対策における「新生活様式」を基にそれぞれの場面において適切な行動をする。 ○部活動運営方針に沿った活動を継続し、安全についても指導していく。 ○ボランティアエンジェルの活用、部活動単位での参加を呼びかけ対応していく。	
４　健康の保持増進と快適な学習環境の整備	(1)心身の健康保持に努め、健康保持増進を図る。	①出席率95％以上を目指す。 ②不登校生徒対策として、一次予防を充実させる。 ③感染症の集団発生ゼロを目指す。	・生徒保健委員会の活動と連携して、基本的生活習慣の定着を図る。 ・Hyper-QU等を有効活用して、早期面談の実施につなげる。 ・情報の早期収集に努め、教室換気の徹底、消毒など、感染拡大防止に努める。	・１学期の出席率は99.1%で目標は達成している。生徒保健委員会の活動やＳＣ等で、さらなる増加を目指したい。 ・Hyper-QUは計２回実施、SC相談、SC小委員会、保護者面談などで不登校対策を行い、完全復帰した例もあった。Hyper-QUの講演会は中止し、資料配付などで対応した。 ・保健委員会や各部署の協力により様々な感染予防策を行った。冬も暖房しながらの換気を継続している。	B	○コロナウィルス感染症対策を継続し、県の通知に基づきながら、状況に合わせて対策の見直しや強化・緩和を行う。CO2濃度検査を利用し、換気の効果の検証を図る予定。 ○不登校事例については、基本的には復帰を目指し、ＳＣ小委員会・学年のみならず、保護者や外部機関などと連携しながら解消を図る。	○来年度に向けて今年度の取組みを活かして欲しい。 ○このような状況下で感染者が出ていないことに感謝。
	(2)環境の美化に努め、快適な学習環境を維持する。	①通常清掃の徹底を図る。 ②教室内の環境基準を遵守する。	・登校日（模試・講習・考査含む）の清掃完全実施と徹底を図る。 ・日常点検と定期点検を機能させ、温度・湿度・CO２濃度・照度等の管理を徹底する。	・清掃時にアルコール消毒を行い、衛生面は以前より向上している。 ・老朽化に伴う異臭対策等が課題である。 ・夏のマスク着用下では、エアコンで温湿度を調整した。高気温時の体育的行事や体育館行事が課題である。残留塩素は昨年より改善した。 ・CO2濃度は12月に検査し、コロナ感染予防対策で教室の換気をしているため良好である。 ・照度は良好		○感染症予防を目指し、全職員と全生徒・全保護者で対策・啓蒙活動を行っていく。 ○高気温時の学校行事について、時期も含めて対応策を検討していく。	
５　家庭、地域社会とのつながりの推進と安全安心な学習環境の整備	(1)危機管理体制を整備し、災害や事故の防止に努める。	①危機管理体制を不断に見直しを図る。 ②「ぶじっ」を適切かつ迅速に発信する。 ③毎月定期点検を行い、校舎を維持管理する。	・危機管理マニュアルを提示し周知を図る。 ・職員、保護者、生徒への登録の徹底を図り、迅速な情報提供と安否確認を行う。 ・関係各所と連携を密にし、維持管理を徹底する。	・職員便覧を全職員に配布している。さらに時期を設け、危機管理確認徹底を図っている。 ・年度当初の「ぶじっ」への安全確認登録、同用ﾒｰﾙ登録の登録徹底を図りながら、登未登録生徒への指導を担任の先生を通じて行った。災害時の情報発信も本部で検討したうえで、発信した。 ・生活課との連携により、実施し、修理修繕が必要な個所については事務部より早急に対応してもらっている。	B	○コロナ禍で、消防署の指導を受けながら、密にならない避難訓練を実施する。 ○緊急情報の発信については、「ぶじっ」の活用と併行して、HP等との連携を図っていきたい。さらに様々なツールや活用方法も含め、検討を重ねていきたい。	○コロナ禍で、今年度のPTA活動が何もできずに終わりそうだが、PTA文庫の増冊を予定している。 ○毎月発行される学校通信を通じて生徒の活躍を見ている。 ▲情報の共有の仕方として、紙ではなくオンラインでのデータを活用するなど検討して欲しい。
	(2)開かれた学校づくりのため、保護者や地域との連携を図る。	①ＨＰの月２回以上の更新、学校広報紙「緑陵」を月１回配布を通して、地域社会等への情報発信を行う。 ②PTA総会出席率を７０％以上にする。	・担当者との情報共有を図り、地域への情報発信を積極的に行う。 ・ＰＴＡ役員の協力を仰ぎ、目標達成を目指す。	・教頭と協力しながら、HPの情報の更新や、緑陵による生徒の活動報告などを積極的に行っている。 ・5月にPTA総会（書面会議）を実施し、承認書提出率1年98.4％、2年95.2％、3年87.6％、承認率各学年とも100％であった。質問、意見については各担当を通じ、丁寧な説明を行っている。		○ＨＰ、「緑陵」、学年通信、学級通信等、学校からの情報発信について、学年や他分掌と連携しながら、情報発信の方法や情報提供の整備をしていく。	